

平成26年度学校マネジメント力強化セミナー第2分科会
学校マネジメント力強化に向けて
教育行政が担う役割
～業務改善の取組から～



茨城県教育庁義務教育課

＜茨城の自然・産業・交通・科学技術＞



袋田の滝(大子町)



国営ひたち海浜公園
(ひたちなか市)



メロン(鉾田市)



茨城空港(小美玉市)



筑波研究学園都市(つくば市)

＜茨城県の概況＞ 平成26年度



[県内 44市町村]

・32市, 10町, 2村

[公立学校数]

・小学校 531校

・中学校 226校

・中等教育学校 2校

・高等学校 97校

・特別支援学校 23校

I 業務改善に関する取組の経緯

II 学校マネジメント力強化による業務改善

III 学校マネジメント力強化による学校改善 ~本年度の取組~

IV 今後の展望

I 業務改善に関する取組の経緯 (担当:市町村教育推進室)

H18 教員勤務実態調査(34時間/1ヶ月)

H20 業務削減・改善に関する実態把握

H21~22 業務の軽量化

H21~業務の効率化

H23~学校マネジメント力の強化による業務改善

1 実態把握から業務の軽量化へ

<改善が必要な11の業務(H20アンケート調査から)>

- ①事務・報告書作成・会計処理②出張を伴う会議
- ③作品募集等④研究指定等⑤出張を伴う研修
- ⑥校内研究・研修⑦外部人材・GTの対応⑧安全対策
- ⑨保護者対応⑩生徒指導や教育相談⑪部活動等

業務の軽量化(H21~22)

区分	県教委	市町村教委
調査等の削減	18/54(33%)	216/672(32%)
会議等の削減	30/41(73%)	355/821(43%)

業務の軽量化に向けた改善策(冊子)

2 業務の効率化(H21～)

(1) 校務処理の電子化

- 校務支援システムの導入促進

21/44市町村で導入(内一元化9市町)

- 県教育情報ネットワークシステムの充実
- ICT活用サポート支援員の学校への派遣(~H24延べ約4000回)

(2) 定時退勤日の実施

Ⅱ 学校マネジメント力強化による 業務改善(文部科学省委託事業を含む)

1 管理職及び教務主任研修

- 業務改善に関する講義・演習等
- グランドデザイン研修(H21～)

2 学校事務の共同実施の推進

- H18～調査研究
- H23～本格実施

21／44市町村(H26)

3 モデル校による実践研究と成果の普及 (文部科学省委託事業)H23～

「教員の勤務負担軽減等の取組」に係る「学校の業務改善(効率化等)に向けた実践研究」

モデル校の指定 5教育事務所各1～2校

- 会議の効率化
- 部活動運営の見直し
- 校務の情報化
- 教職員の意識改革・地域との連携・協働
- 校務マニュアル作成・環境の整備
- 教員の校務分掌の見直し 等

講師と県教委担当者の訪問指導
(茨城大学 加藤崇英先生)

【H23年度】取組を効率的に

- 全職員で共通理解 ○できるところからはじめて継続
- リーダーを中心に**チーム**で
- 一人一人のスキルアップ会議の効率化

【H24年度】効率的・継続的に

- 学校運営の改善サイクル ○取組の評価を
- 学校の最適化 ○一人一人の改善意識、**当事者意識**

【H25年度】組織的・継続的に

- 全職員による協議**の中から課題を
- リーダーを中心に**チーム**で
- 校務支援システム等ICT環境の整備
- 家庭や地域の力を学校運営に生かす



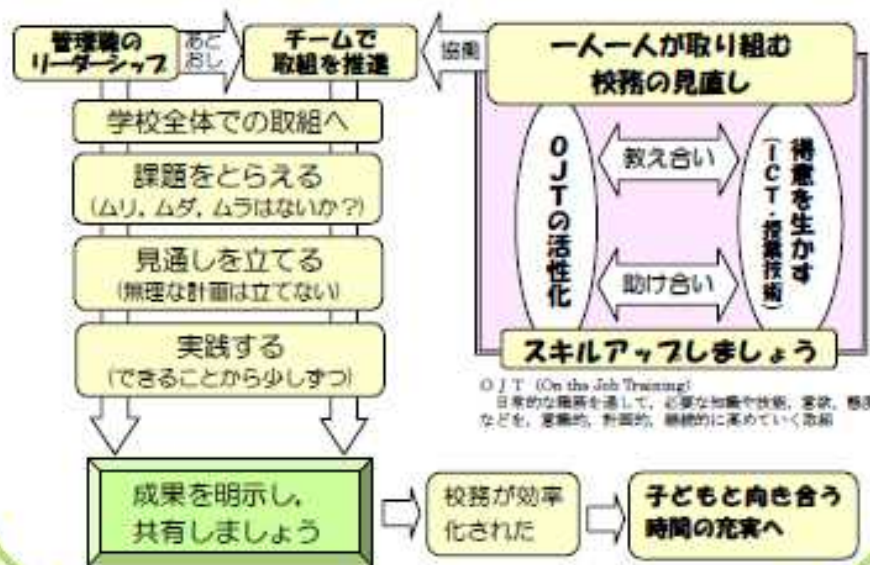
**リーフレット・管理
職研修会等で成
果普及**

—子どもと向き合う時間を充実させるために—
学校運営を見直して校務の効率化を図りましょう

取組を効果的に進めるためのポイント

- 全教職員で共通理解を図り、取組に対する意識を高めましょう。
- 学校の実態に合わせて、できるところから始めて、継続しましょう。
- 取組のリーダーを中心に、チームで進めていきましょう。
- 教え合い、助け合いで一人一人のスキルアップを図りましょう。

取組の流れ



「子どもと向き合う時間を充実させる」ためには

「子どもと向き合う時間の充実」とは、教職員がゆとりをもって直接子どもたちに対応したり、教材研究をしっかりと行う時間を確保したりするなど、「子どもの指導全般にかかわる時間を充実させること」ということができます。
 そのためには、学校全体で学校運営の方法等を見直して教職員の負担(感)の軽減を図ったり、一人一人がこれまでの仕事の方法を見直して校務の効率化を図ったりするなどの取組がよりいっそう必要です。

リーフレット
 → 県HP
 「信頼される学校づくり」

実践事例1 ICT活用方法を工夫して校務の改善と効率

化！【龍ヶ崎市立馴柴小学校】

平成23年度モデル校

□実践のためのポイント

■ ICT活用の推進にはルールと使いやすさが大切

- ・データの共有（ファイル名やフォルダの作成）のルール作りが大切
- ・学校ポータルサイトを作成し、ファイルやウェブサイトリンク（校内データ検索と情報検索が素早くできて探す手間なし）

■ 打合せや会議の電子化で

- ・連絡事項は電子黒板で、打合せの縮減
- ・会議はペーパーレスで、データは常時閲覧可

・使ってみたらとても便利。
（PCの活用率 100%）
・ミニ研修ですぐ解決。苦手意識の解消。

■ 学校行事の反省・集計を機能的に

- ・アンケート機能で印刷・配付・回収。集計作業が不要に（5時間が1時間に）
※県教育情報ネットワークの機能
- ・反省をもとに改善プランを作成し次年度へ（データで保存し確実な引継ぎ）

・打合せは週1回、短時間で
・資料印刷・作成の時間を削減（2時間→0時間）
・必要な会議要項も素早く検索